

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472301165	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	株式会社 へいあん			
事業所名	グループホーム「へいあん鴨宮」			
所在地	(250-0874) 神奈川県 小田原市 鴨宮 820			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成24年2月8日	評価結果 市町村受理日	平成24年7月9日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 「お客様が主体」を基本理念とし、日頃のケアは基よりご家族のご協力も頂きながら一人ひとりの希望や意向に添った個別ケアをしている。(馴染みの場所の同行・買い物・ドライブ・日帰り温泉・山歩き・編み物・ご近所散策・絵画・習字・カラオケ・園芸など)
- 最期まで寄り添うことができるように研修や勉強会等で職員のスキルアップを図り、ターミナルケアを実施している。
- 自治会や近隣の皆様が協力的であり、自治会の行事に参加させていただいたりホームの行事に参加していただくなど交流は年々深まっている。また、避難訓練においては近隣の方から「参加したい」との希望があり、避難方法を一緒に考えてくださるなどより地域に根ざしたグループホームを構築しつつある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成24年2月23日	評価機関 評価決定日	平成24年5月31日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- 【事業所概要】**
このホームはJR東海道線鴨宮駅から徒歩15分程の閑静な住宅街にあり、今年で開設6年目を迎える。居室は全室南向きで明るく、共用スペースは居間と食堂を合わせると運動会が出来るほどの広さがある。運営法人は介護事業の他に冠婚葬祭互助会事業など幅広く展開している。その利点を活かし、法人グループ内の出張調理で和食職人やパティシエによる寿司会席料理やケーキバイキングなどを定期的に開催している。
- 【地域とのつながり】**
近隣住民はとても協力的である。運営推進会議への参加やボランティア活動など日頃から積極的に関わり、事業所の防災訓練では近隣住民が利用者の手をひいて誘導し、一緒に避難訓練をしている。自治会や事業所の様々な行事での交流もあり、地域と事業所のつながりは深く根付いている。事業所では地域交流室を活用した喫茶「なごみ」を月2回開催しているが、利用者、家族、近隣住民の交流の場をさらに広げる機会として、今後は出張調理イベントへの招待を検討している。
- 【個人の意向に添った支援】**
皆同じではない一人ひとりの思いを尊重した支援を心がけている。職員は利用者との会話や家族の話などから、本人の思いを汲みとり、カラオケや温泉、本人の馴染みのある場所へ個別に外出支援したり、コーヒーが好きな利用者のために、事業所を喫茶店風にして雰囲気を楽しんでもらうなど、基本理念である「お客様が主体」のケアに力を入れて取り組んでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム「へいあん鴨宮」
ユニット名	ユニット1 かるがも

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年申し送り時に理念を唱和し共有している。	開所にあたり「自分だったらどのようにしてほしいか・・・?」という視点から職員全員で話し合い、事業所独自の理念「お客様に寄り添う時を大切にします。」を作成した。法人理念は玄関前に、事業所理念は各フロアに掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入ってお客様が参加できる行事に参加したり、ホームの行事に招いたりとの交流がある。(文化祭・紙芝居・太極拳・習字・保育交流の継続に三味線・腹話術・喫茶室でのハーモニカを演奏している。)	自治会には開所時からグループホームとして加入している。様々な行事に参加し、こども会の神輿の立ち寄り所にもなっている。昨年2月から、地域交流室を喫茶「なごみ」として近所の方と利用者、家族との交流の場として活用している。こども達との交流を重視し民間の託児所への訪問を毎月行なっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において事例の報告を行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告やヒヤリハット報告に対してアドバイスを頂く。 運営状況やサービスの内容等の報告に対して利用者は幸福だねとの評価を頂く。	運営推進会議は、奇数月の第四木曜日の午後で開催している。民生委員や地元住民、第5地区地域包括支援センター職員、家族などが参加している。会議テーブルを喫茶店風の丸テーブルに変え、コーヒーを出して和やかな雰囲気演出し、気軽に意見交換が行えるよう工夫している。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の連絡や鴨宮便りを届けながら情報を頂くなどの関係にある。	市の高齢介護課の担当職員とは要介護認定申請手続きや介護保険についての相談をしたり、研修などの情報交換をしている。日常的な情報交換や連携は第5地区地域包括支援センターと行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>本社の人材開発の主催により研修を行い、確認し合っている。</p> <p>玄関の施錠はしていない。</p>	<p>法人として毎年1回、職員全員を対象に高齢者虐待防止法を含めた身体拘束廃止についての研修を行っている。</p> <p>利用者の不意の外出に備え、日頃から近隣住民や駅前交番への協力をお願いしている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>本社の人材開発の主催により研修を行い、認識している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>本社の人材開発の主催により研修を行い、認識している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の内容を全文読み上げ説明し、疑問点にお答えし理解・納得が得られるよう努めている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会に来られた時や家族会等で意見をお聴きしている。</p>	<p>家族会は年に1～2回の頻度で開催され、ほとんどの家族が参加している。</p> <p>大幅な人事異動、医療連携体制加算、介護保険制度の改正などについて内容が話し合われている事を議事録から確認した。家族からは行事についての意見や希望などが多い。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃より職員と積極的にコミュニケーションをとり、意見や提案を聞く機会としている。	法人のヘルスケア事業部は、毎年、サービス向上のため研究発表会を行っている。この事業所では、昨年、ホーム内の転倒防止について取り上げ「危険個所マップ」を発表し、優勝するという成果を上げた。職員には定期的に個人面談を行い、個人目標の設定や業務についての意見を聞いている。	法人では「職員の声は利用者の声」という姿勢で定期的に個人面談を行っています。この意欲的な取り組みは今後も継続し、日常業務の改善やスキルアップのための外部研修の活用など、さらにきめ細かく職員の意見を取り入れサービスの質の向上に繋げることを期待します。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1～2回程度の面接の機会を設け意見を聴き職場環境や条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別研修計画を社内で作成し、成長目標を設定しています。社内外の研修にも積極的に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小田原市内のグループホーム連絡会が主催する研修に参加している。(グループワーク交流)		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者が訪問し、初回アセスメントに十分時間を取り、在宅ケアマネからの経過についての情報収集を行い、不安の軽減に努めている。入居前に見学・体験の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントに十分な時間を取り、情報収集し、出来る限り対応出来る様に関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅ケアマネからも情報収集を行い、継続すべきサービス利用については検討している。 本人と家族の生活に対する意向を伺い、出来るだけの対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔からの風習などはお客様から教えていただいたりしている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のホームでの様子を情報提供し、ケアについて家族と相談しながら行う事で共に支える関係を築いている。 行事・外出への同行のお誘い、面会の際に居合わせたスタッフがご家族に積極的に話しかけていくことで関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られたときには当時のお話を伺うなど良好な関係を続けられるようお願いしている。 馴染みの場所には出来るだけお連れしている。	家族に協力をお願いしたり職員が付き添うなどして、神社や教会、自宅など本人の馴染みの場所へ定期的な外泊や外出を個別に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話がすすんでいるお客様には見守りをし、かみ合わないお客様同士や目に余る行為・危険が伴う可能性のある場合は職員が間に入り支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後半年位は、その後の様子を聞きながら連絡を取っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	言葉での訴えが出来る人は思いや期待に添ったおもてなしを、言葉での訴えができない人は表情などで感じ取りながら希望に添えるように努めている。	日常会話の中から、または表情の変化や反応から個人の意向を把握するよう努めている。困難な場合には家族が来訪した時に、本人の好きだったことなどを聞き、思いの把握に努めている。把握した情報は申し送りなどでスタッフ同士で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、在宅ケアマネからこれまでの生活歴の情報収集を行い、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にあセスメントを行い、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者を中心にミーティング時に職員間で意見交換を行っている。また、24時間生活変化シートや私の気持ちシートを活用している。</p>	<p>スタッフ1名に対し利用者1~2名の担当制として、毎月のミーティングでモニタリングを行なっている。6ヶ月毎または利用者の状態変化時にアセスメントを行い、家族の意見や医師からの情報をもとに、ミーティング時に職員全員で意見交換して介護計画に反映している。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ご家族が状況把握できるよう、日々の様子をありのままに記入している。ケアの実践の有無はサインをする事で共有し、介護計画の見直しの際参考にしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>個別ケアの時間を設け、一人ひとりに合ったケアを心掛けている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>託児所での交流や太極拳・習字のボランティアの協力で支援している。来所されるボランティアの方が更に他のボランティアに声をかけていただき、その輪が広がっている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時にホームの往診医がこれまでのかかりつけ医を継続するか自由に選んでいただいている。4週間に1度内科の往診を継続している。内科以外で受診が必要になった時には、これまでのかかりつけ医を第一に選択肢、支援している。</p>	<p>現在は利用者全員が協力医をかかりつけ医としている。内科以外の受診では、基本的には家族が付き添いをして、受診記録により職員とも情報共有している。訪問看護師は週1回、協力医の往診は月1回ある。医療連携体制加算をとり、緊急時には24時間連絡、支援を受けられる体制がある。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>契約している訪問看護ステーションより、週に1度訪問してその週の様子を申し送る事により、適切な看護や受診が行える体制を取っている。</p> <p>状態急変時は、24時間電話連絡可能な体制を作っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>終末期においてはホームでできる事・出来ない事をご家族・主治医に説明した上で、方針を共有している。</p> <p>看護師によるホーム内での看取りの勉強会を実施している。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期においてはホームでできる事・出来ない事をご家族・主治医に説明した上で、方針を共有している。</p>	<p>家族・本人には契約時に「看取りの指針」で事業所の方針を説明し、重度化した場合には「ターミナル時の希望書」でその都度、家族と意向を確認しながら対応している。今までに2名の看取りを行った。ホーム内で看護師による、終末期の対応やエンゼルケアなどの研修会を実施している。</p>	<p>22年度の目標達成計画にある、看取りに対しての研修は実施されています。今後も様々なケースに職員全員が不安なく対応できるよう、定期的な研修を継続していく事を期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>毎朝申送り時にCPR手順の唱和をし、急変時に備えての訓練をしている。</p> <p>定期的に看護師により対応方法などを学んでいる。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域住民複数名の参加の上で、消防署の協力のもと年2回の避難訓練を実施している。</p>	<p>防災用備蓄は3日分あり、法人で賞味期限などを一括管理し、定期的に入れ替えている。東日本大震災後、建物の耐震補強を行った。緊急時は法人全体で「緊急時就業拠点」体制をとり、連携を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常より、言葉遣いや手招きなどに注意を払っている。 気になる職員は管理者が指導している。	利用者は「お客様」であることを常に意識して接している。訪問時、職員の利用者への言葉かけは丁寧な敬語だった。プライバシー尊重の観点から、本人の希望で自室の内側から施錠している方もいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険が生じる場合を除いては出来るだけ本人の希望されていることを第一とし見守りをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合とならない様に、利用者主体のサービスを心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまで使用していた化粧品などは継続している。 洋服は本人の好む着方を尊重しつつおしゃれに着られるよう支援している。 衣類の選択が出来る人はご本人に決めていただく。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや下膳・洗物などは役割りを決めて一緒に行っている。 デザートはお膳に乗せず、後出しをして楽しんでいただけるよう工夫している。 楽しい雰囲気の中で食事が出来る様に、2、3名のスタッフが一緒に食事をしている。 行事の際にはメニューや配膳を工夫し、いつもと異なる雰囲気を楽しめるようにしている。	法人グループ内の出張調理で、和食職人やパティシエによる寿司会席料理やケーキバイキングを定期的で開催している。外食には個別支援で月1~2回行っている。日常の食事は各フロアごとに利用者の希望をもとに献立を作成し、調理や盛り付けなどを利用者と一緒にこなしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に一度体重測定を行い、体重の増減にあわせて食事量の調節などの個別の対応を行っている。 摂取しやすいよう口内アセスメント・食事形態の工夫をしている。 水分摂取量のチェックをしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。義歯の方は外して洗浄していただく。ご自身で行えない方には、ガーゼ清拭等その方に合わせたケアを行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンをアセスメントし、トイレ誘導を行っている。尿意・便意のサインを見逃さないように努めている。	自然な対応を心がけ、食事の前後などに一斉に声かけしている。訪問時、昼食を終えた利用者同士が誘い合いトイレに行く姿が見られた。自立に向けて支援した結果、1名がおむつから改善された例もある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況を把握し、オリゴ糖・牛乳・乳製品・プルーンなどで工夫している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯は決めているが、出来るだけ本人の意向に添うように入浴の支援を行っている。	浴室は広く、三方向からの介助が可能である。個別に同性介助をしている。通常は夕方4～5時30分の時間帯で利用者は平均して週に2～3回の頻度で入浴している。入浴したがる方には、無理強いせず対応するスタッフや時間を変えて何度か声かけをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々に合わせている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤表をいつでも確認出来る様にしている。 薬についての勉強会を行い、知識の理解に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事やお花の手入れ・庭の草取りや家庭菜園など個々に役割りを持って行っている。また、外出・ドライブ・買い物などお客様の希望に応じて行っている。 月に2回の喫茶室を行い、外出が難しいお客様も楽しめるようにしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別ケアで外出支援を行っている。託児所へ訪問し、子供との交流を図ったり紅葉を楽しんだり、デパートまわりや外食などを行っている。	日常的な散歩へは、午前、午後の2回、声かけをして希望する方と出かけている。その日の気分で、南向きのベランダや庭先で外気浴をされる方もいる。個々の希望に合わせた個別の外出支援を重視し、温泉やいちご狩りなどに出掛けている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で小銭を管理している方には、買い物の際自身で支払をしていただく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも連絡したい時には自由に電話・手紙のやり取りをしている。必要に応じて電話のやり取りは介助している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差があるので意見がまとまらないときもあるが、職員が間に入りながら出来るだけ良い環境づくりに努めている。掲示物や音楽で季節感を工夫している。	フロア中央に洗面、トイレが配置され共用スペースと居室エリアが分けられ、プライバシーが確保される造りになっている。食堂と居間は普段使い分けているが、つなげると運動会を行えるほどの広さがあるので、ホーム内のイベントに活用している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	景色の良い場所にテーブルとイスを設置している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物を持って来て頂き、ご自身にあった居室の環境づくりを工夫している。	全室南向きで採光が良い。備え付けのエアコンとクローゼット以外は全て個人の好みの物や使い慣れたものを用意してもらっている。趣味の小物や、たくさんの思い出の写真を飾る方、よけいなものを置かずすっきりと片付けている方など様々である。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を設置し、わかりやすくしている。トイレ入口には「お手洗い」の札を設置している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472301165	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	株式会社 へいあん			
事業所名	グループホーム「へいあん鴨宮」			
所在地	(250-0874) 神奈川県 小田原市 鴨宮 820			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護		登録定員	名
			通い定員	名
			宿泊定員	名
	認知症対応型共同生活介護		定員計	18名
			ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成24年2月8日	評価結果 市町村受理日		

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 「お客様が主体」を基本理念とし、日頃のケアは基よりご家族ご協力も頂きながら一人ひとりの希望や意向に添った個別ケアをしている。(馴染みの場所の同行・買い物・ドライブ・日帰り温泉・山歩き・編み物・ご近所散策・絵画・習字・カラオケ・園芸など) 最期まで寄り添うことができるように研修や勉強会等で職員のスキルアップを図り、ターミナルケアを実施している。 自治会や近隣の皆様が協力的であり、自治会の行事に参加させていただいたりホームの行事に参加していただくなど交流は年々深まっている。 また、避難訓練においては近隣の方から「参加したい」との希望があり、避難方法を一緒に考えてくださるなどより地域に根ざしたグループホームを構築しつつある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名			
所在地			
訪問調査日		評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム「へいあん鴨宮」
ユニット名	ユニット2 こさじ

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年申し送り時に理念を唱和し共有している。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入ってお客様が参加できる行事に参加したり、ホームの行事に招いたりの交流がある。(文化祭・紙芝居・太極拳・習字・保育交流の継続に三味線・腹話術・喫茶室でのハーモニカを演奏している。)		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において研究発表を行った内容を報告し、認知症の人との関わり方を報告している。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム内の行事や困難事例の報告のほか、気軽に会話ができる様喫茶風な会議の取組みをした。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の連絡や鴨宮便りを届けながら情報を頂くなどの関係にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束の理念の理解はしているが、お客様の状況に応じて施錠をすることもある。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>本社の人材開発の主催により研修を行い、認識している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>本社の人材開発の主催により研修を行い、認識している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の内容を全文読み上げ説明し、疑問点にお答えし理解・納得が得られるよう努めている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月発行している鴨宮便りを家族に配布しお客様の様子をお伝えしている。その便りを基に、意見・要望・感想を聞かせていただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃より職員と積極的にコミュニケーションをとり、意見や提案を聞く機会としている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1～2回程度の面接の機会を設け意見を聴き職場環境や条件の整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別研修計画を社内で作成し、成長目標を設定しています。社内外の研修にも積極的に参加している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小田原市内のグループホーム連絡会が主催する研修に参加している。(グループワーク交流)		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者が訪問し、初回アセスメントに十分時間を取り、在宅ケアマネからの経過についての情報収集を行い、不安の軽減に努めている。入居前に見学・体験の機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントに十分な時間を取り、身体的・生鮮的な悩み、また生活状況や環境の情報収集し、出来る限り対応出来る様に関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅ケアマネからも情報収集を行い、継続すべきサービス利用については検討している。 本人と家族の生活に対する意向を伺い、出来るだけの対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔からの風習やご家庭での生活習慣などはお客様から教えていただいたりしている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のホームでの様子を情報提供し、ケアについて家族と相談しながら行う事で共に支える関係を築いている。 行事・外出への同行のお誘い、面会の際に居合わせたスタッフがご家族に積極的に話しかけていくことで関係を築いている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られたときには当時のお話を伺うなど良好な関係を続けられるようお願いしている。 馴染みの場所には出来るだけお連れしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話がすすんでいるお客様には見守りをし、かみ合わないお客様同士や目に余る行為・危険が伴う可能性のある場合は職員が間に入り支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後半年位は、その後の様子を聞きながら連絡を取っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	言葉での訴えが出来る人は思いや期待に添ったおもてなしを、言葉での訴えができない人は表情などで感じ取りながら希望に添えるように努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、在宅ケアマネからこれまでの生活歴の情報収集を行い、把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にアセスメントを行い、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	短期・長期目標を作成し、計画にそぐわないプランは再度見直すなど実施している。		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	個別記録に記入すると同時に申し送りノートに変更点を記入し、共有漏れがないように努めている。		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	個別ケアの時間を設け、一人ひとりに合ったケアを心掛けている。		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	託児所での交流や太極拳・習字のボランティアの協力で支援している。来所されるボランティアの方が更に他のボランティアに声をかけていただき、その輪が広がっている。		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	入居時にホームの往診医がこれまでのかかりつけ医を継続するか自由に選んでいただいている。4週間に1度内科の往診を継続している。内科以外で受診が必要になった時には、これまでのかかりつけ医を第一に選択肢、支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>契約している訪問看護ステーションより、週に1度訪問してその週の様子を申し送る事により、適切な看護や受診が行える体勢を取っている。</p> <p>状態急変時は、24時間電話連絡可能な体勢を作っている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は看護・介護サマリーを提出している。</p> <p>退院時は担当看護師より情報収集を行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期においてはホームでできる事・出来ない事をご家族・主治医に説明した上で、方針を共有している。</p> <p>看護師によるホーム内での看取りの勉強会を実施している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>毎朝申送り時にCPR手順の唱和をし、急変時に備えての訓練をしている。</p> <p>定期的に看護師により対応方法などを学んでいる。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地域住民複数名の参加の上で、消防署の協力のもと年2回の避難訓練を実施している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常より、言葉遣いや手招きなどに注意を払っている。 気になる職員は管理者が指導している。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険が生じる場合を除いては出来るだけ本人の希望されていることを第一とし見守りをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先ではなく、お客様のペースで過ごしていただいている。状況によっては業務内容を変更するなど、柔軟に対応するよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまで使用していた化粧品などは継続している。 美容院へ希望される方も家族の付添いにて行かれる。 行事時には支援しながらのおしゃれを楽しまれている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、洗い物などを一緒に行っている。 料理が好きな方には、職員と共に調理していただく機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>月に一度体重測定を行い、体重の増減にあわせて食事量の調節などの個別の対応を行っている。</p> <p>摂取しやすいよう口内アセスメント・食事形態の工夫をしている。</p> <p>水分摂取量のチェックをしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔ケアは毎食後行っている。義歯の方は外して洗浄していただく。ご自身で行えない方には、ガーゼ清拭等その方に合わせたケアを行っている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄パターンをアセスメントし、トイレ誘導を行っている。尿意・便意のサインを見逃さないように努めている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>一人ひとりの排便状況を把握し、オリゴ糖・牛乳・乳製品・プルーンなどで工夫している。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>時間帯は決めているが、出来るだけ本人の意向に添うように入浴の支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は個々に合わせている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤表をいつでも確認出来る様にして いる。 薬についての勉強会を行い、知識の理解に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事やお花の手入れ・庭の草取りや家庭菜園など個々に役割りを持って行っている。また、外出・ドライブ・買い物などお客様の希望に応じて行っている。 月に2回の喫茶室を行い、外出が難しいお客様も楽しめるようにしている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別ケアで外出支援を行っている。託児所へ訪問し、子供との交流を図ったり紅葉を楽しんだり、デパートまわりや外食などを行っている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけたときなどに使えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも連絡したい時には自由に電話・手紙のやり取りをしている。必要に応じて電話のやり取りは介助している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差があるので意見がまとまらないときもあるが、職員が間に入りながら出来るだけ良い環境づくりに努めている。掲示物や音楽で季節感を工夫している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	景色の良い場所にテーブルとイスを設置している。独りになりたい時、お客様同士で過ごしたいときなどの場所は常に用意し、自由に過ごしていただいている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある物を持って来て頂き、ご自身にあった居室の環境づくりを工夫している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口には表札を設置し、わかりやすくしている。トイレ入口には「お手洗い」の札を設置している。		

目標達成計画

事業所名: グループホームへいあん輪宮

作成日: 平成24年7月9日

【 目標達成計画 】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取組み内容	目標達成に 要する期間
1	33	終末期において1人の夜勤が不安である	スタッフ全員が終末期の対応が不安なくできる	ターミナルの重要性や適切な対応ができるように定期的なミーティングと研修を継続する	今年度中
2	11	ケアのあり方、やり方が統一されていないことがある	現場の声を反映しながら適切なケアができる環境作りをする	個人面談の継続 ミーティング等での意見交換 適切なケアを確認しあえる 勉強会の継続	今年度中
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

サービス評価の実施と活用状況

事業所の外部評価の実施と活用状況について振り返ります。
「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活用状況について振り返り】

実施段階		取り組んだ内容	
		(1該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	① 運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	② 利用者へのサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③ 利用者家族へサービス評価や家族アンケートの紙を渡して説明し、協力をお願いした。
		<input type="radio"/>	④ 運営推進会議でサービス評価を説明するとともに、どのように評価機関を選択したかについて報告した
		<input type="radio"/>	⑤ その他 ()
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	① 自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	② 前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③ 自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った。
		<input type="radio"/>	④ 評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤ その他 ()
3	外部評価 (訪問調査当り)	<input type="radio"/>	① 普段の現場の状況を見てもらったり、ヒアリングで現場の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	② 評価項目のねらいを踏まえて、評価調査員と単直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③ 対話から、事業所が努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④ その他 ()
		<input type="radio"/>	⑤ 運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
4	評価結果 (自己評価、外部評価) の公開	<input type="radio"/>	① 利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	② 市町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		<input type="radio"/>	③ 運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	④ その他 ()
		<input type="radio"/>	⑤ 職員全員で次のステップに向けた話し合い、「目標達成計画」を作成した
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	① 「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議へ説明し、協力やモニタリング依頼した (する)
		<input type="radio"/>	② 「目標達成計画」を市町村へ説明し提出した (する)
		<input type="radio"/>	③ 「目標達成計画」に則り、目標を目標して取り組んだ (取り組む)
		<input type="radio"/>	④ その他 ()
		<input type="radio"/>	⑤ その他 ()